

2. 現職教育（同和・人権）

1. 研究主題

あすに伸びる力と豊かな心をもち、たくましく生きる子どもの育成

2. 主題について

- （1）国際化、情報化、少子高齢化、価値の多様化、生涯学習社会化等、社会の変化が大きい時代である。そのため、これからの社会に対応して生きていく能力を伸ばし、創造性を高め、個性を大切にし、思考力・判断力・表現力等を育成する必要がある。
- （2）校区の歴史的背景を考慮すると、同和・人権教育の充実が大切である。そのことを、学校教育全般の中で取り上げていかなければならない。
- （3）本校がめざす子ども像とは、
 - ・差別に対する正しい認識が身についている。
 - ・基本的生活習慣が身についている。
 - ・学ぶ意欲があり、基礎学力が定着している。
 - ・感受性が豊かである。
 - ・その場に合った正しい判断ができる。

である。

問題やトラブルをゼロにできなくても、むしろ、たとえ問題が起きても「しなやかさ」をもって対応できる、そんな子になってほしいと願っている。このような児童は、自分自身を客観的に見ることができる子であり、自分の中にある複雑さを認められることで、相手の思いも想像でき、豊かな発想ができる子であると考えます。本校が考える「しなやかさをもつ児童」とは、多くの選択肢をもっているため、回復力があり、また、他者に対しては、共感したり、認め受け入れたりすることができる児童なのではないかと捉えている。したがって、そのための課題を明らかにし、具体的に研究を進める。

（4）3部会の設置

3部会のテーマ	
同和人権社会	基本的人権を尊重し、事実に基づく正しい社会認識を身につける。
生活指導	基本的生活習慣を身につける。 仲間づくりを進める。
学力（算数・国語）	学年に応じた確かな計算力をつけ、論理的な問題解決能力を身につける。言葉 葉を大切にし、豊かな感受性と表現力、考える力を身につける。

同和人権を軸とした教育活動をより充実させ、具体的に取り組むことを目指すため、3部会を設置する。さらに、教員の指導力の向上を目指し日々実践を積み上げ、児童の育成に生かしていきたい。

また、各教科・3部会の研究内容を検討し、基礎学力の充実と定着を目指すために、学年に応じた評価目標を定める。これを各題材に関連づけ、基礎・基本を大切にした指導に取り組む。

3. 主題達成への具体的努力点

- (1) 差別を見抜き、差別に立ち向かっていこうとする態度を育てる。
- (2) 相手の立場を理解し助け合い、いじめや疎外状況を見逃すことなく、誰とでも仲良くする心を育てる。
- (3) 仲間づくりを通して、身のまわりにある不合理や差別を、力を合わせてなくしていく実践力を育てる。
- (4) 恵まれない環境にある児童の生きる意欲と力をつけるための学力・体力を養う。
- (5) 基本的人権を尊重する精神を養い、実践的な態度を育てる。
- (6) 物事を論理的・科学的に考え、認識する態度を育てる。
- (7) 基本的生活習慣を身につけ“自立する”子どもを育てる。
- (8) 教師の“授業力”を高め、授業で子どもを鍛える。そこから、基礎学力の充実を図り、学習意欲を育てる。
- (9) 豊かな心情を育てる中で、人間らしい見方やより価値の高い生き方について考えを深める。

4. 取組

各学年と3部会を中心とした取組を進める。

3部会の実践

①同和人権社会

- ◎地域関連学習の発掘と研究を進める。
- ◎人の働く姿等を通して、人と社会の関わりが実際に見える取り組みを心がける。
- ◎多様な学習活動を工夫し、子どもが「人」「もの」「社会事象」に主体的に関わることができるようにする。
 - ・見学、調査活動等の体験学習を重視する。
 - ・調べたことを絵や文にまとめる、発表形式で伝える、討論会形式で話し合う等、自らの考えを具体的、論理的に表現できるような活動を取り入れる。
 - ・個々の活動の共有化、根拠を持った自分の考えをつくる活動を大切にする。

②生活指導

- ◎子どもの姿を具体的につかみ、指導に生かす。(生活習慣・生活意識の把握)
- ◎学校、学年の目標を設定するとともに、子ども一人一人にも目標を持たせ、目標達成に向けて支援する。(基本的な生活習慣の充実・仲間づくりの促進)
- ◎基本的な生活習慣の学年ごとの実践を具体化する。
- ◎家庭、地域の人々と共に考える場を生かす。(家庭訪問・学級懇談会・地区懇談会)

③学力(算数科国語科を通して)

- ◎各学年の実態を把握するため、基礎学力テスト(計算)を年度当初と2学期に実施する。
 - ・テスト結果を踏まえ、1～6年までの系統だった課題点を分析する。
 - ・課題点を克服するため、学力タイム等で計画的に取り組む。
- ◎各学年において、年間の単元内容を見通し、計画的に実践できるよう教材研究に取り組む。
- ◎算数科の学習では、児童が問題解決をする際、「数学的な見方・考え方」の育成を目指しながらも、

計算力が基礎となることが多い。したがって、主に計算力をつける研究を進める。

◎言葉を大切にしたい学習活動を通して、言語感覚を養う取組を進める。

◎一人一人の感じ方や考え方の共通点と違いに気付かせ、認め合うことを大切にする。

◎「聞く・話す・読む・書く」ことのバランスを大切にして研究を進める。

授業実践

①教師の“授業力”を高め、子どもに確かな学力をつける

◎お互いにみがき合い、高め合う学級集団をつくる。

- ・落ち着いた雰囲気での学習する集団
- ・まじめさと正義感が正しく評価される集団
- ・教師や友達の「ことば」をしっかり聞ける集団
- ・わかる喜びを分かち合う集団

◎「楽しく、わかる授業」を工夫する。

- ・深い教材研究とねらいのはっきりした授業
- ・学ぶ意欲を育てる授業
- ・一人一人の発言を大切にしたい授業
- ・子どもが自主的・自発的に取り組む授業

◎学習の遅れやつまづきの内容を具体的にし、それを取り除く手立てをする。

以上のことに留意しながら、各学年より授業を提案する。

子どもたちの学習実態を振り返って、以下のことを改善していきたい。

- ・相手意識をもって、話したり聞いたりできない子が多い。
- ・“言葉”以外のもの、つまり資料やデータなどを根拠とした考えの表現が苦手である。
- ・学習したことや経験したことを生かして、課題解決しようとする力が弱い。
- ・友達の考えを聞いて、自分の考えを再構築し表現することが苦手である。

以上の点に鑑み、授業研究テーマは

「筋道を立てて考え、論理的に表現する力の育成」
～既習事項を活用して問題解決できる児童の育成をめざして～
と設定する。

さらに、学年が上がるごとに積み重ねていくことは前提であるが、

- ・低学年では、「相手意識をもって話すことができ、聞いたことに反応して話をきくことができる」
- ・中学年では、「自分の考えをもち、絵や図、テキストに戻するなどして考えを示すことができる」
- ・高学年では、「他者の発言を受けて、自分の考えを再構築（アウトプット）することができる」

を目標とし、授業改善に生かしていく。研究授業で提案する教科等は固定しない。

授業研究協議会では、考えた単元構成や評価等の計画がねらいや目標に迫るものであったか、授業者のどのような言動で学習に深まりが出たのか、児童の実態に照らし合わせながら協議する。